



2024年8月9日

各位

会社名 サイバートラスト株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 北村 裕司
(コード番号：4498 東証グロース)
問合せ先 取締役 常務執行役員 CFO 清水 哲也
(TEL 03-6234-3800)

2025年3月期第1四半期決算に関する質疑応答集

当社の2025年3月期第1四半期決算に関して、当社で想定していました質問および発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問い合わせ、感想および当社からの回答をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。

なお本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆修正を行っております。

Q1 決算説明資料のエグゼクティブサマリーにおいて、「自社ルート認証局本格運用に向けた一時的費用」とあるが、詳しく説明が欲しい。

A1 一時的な費用の増加要因についてご説明させていただきます。

当社グループは日本国内でサーバー証明書を発行する認証局を25年以上に渡り運用しておりますが、ルート認証局については海外のルート認証局依存から自社ルート認証局を構築運用する方針に転換しております。一時的な費用の増加は、本年度中の自社ルート認証局の本格運用開始のための外部監査及び本格運用に関連した対応費用がこの第1四半期において発生したことによるものです。今回の対応により、本年度中にApple社、Google社、Mozillaなどが提供する各種ブラウザに当社ルート認証局の証明書が搭載される予定です（主要ブラウザベンダー4社のうちMicrosoftに加えて2社目の承認を取得しました。また、GoogleとAppleについても承認取得を進めております。）。

なお、海外のルート認証局依存から自社ルート認証局を構築運用する理由は、デジタル化が進展する昨今において、信頼の起点となるルート認証局を自社で運用し、証明書の発行や証明書に関わるデータを日本国内で保護することが経済安全保障の観点からも重要と考えるからです。

Q2 通期業績予想に向けての進捗状況について教えてください。

A2 通期業績予想に向けた進捗状況としては、順調にスタートできたものと評価しており通期業績予想の達成を見込んでおります。

①第1四半期業績は概ね計画通りの結果となったこと、②認証・セキュリティサービスが第2四半期以降もiTrust中心にリカーリングが四半期ごとに積み上がる見込みであること、そして③Linux/OSSサービスが第1四半期においてCentOS延長サポートが当初予想を上回る受注残5.5億円（複数年契約を含む）を達成しておりリカーリングが四半期ごとに積み上がる見込みであること、を通期業績予想の達成を見込む主要因と考えております。

Q3 CentOS延長サポートの受注残が想定以上ということですが、要因は何でしょうか？

A3 CentOS7のコミュニティサポートが2024年6月末に終了し、2024年7月以降も安心してCentOS7を継続利用する上で必要となるセキュリティアップデート、日本語テクニカルサポートを提供する延長サポートについて当社は想定を超える受注残を獲得することができました。

想定以上となった要因は以下の通りに考えております。

- ①地方や中小・中堅企業顧客への販売機会を増やすための**パートナー協業の整備・強化**に取り組んできたこと（パートナー企業数は**1年間で37社増加**し188社）
- ②コミュニティサポート終了に向け**幅広い業界へ向けた広告の実施**により**当社の技術力の認知が向上**したこと
- ③その他**キャンペーン等販促活動を強化**したこと

- * iTrust®は当社の登録商標です。
- * 登録商標 Linux® は、Linus Torvalds から排他的ライセンスを受けている The Linux Foundation からサブライセンスを受けて使用しています。
- * その他本文書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

以上